

図書館だより

HGU Library

library.hgu.jp

vol.224

April 2021

言葉の魅力

外国語学習ノススメ

図書館長・人文学部日本文化学科教授 大谷 通順

大学で英語を学ぶ意味

経済学部経済学科准教授 柁木 貴之

タイムカプセルを開けてみよう

人文学部日本文化学科准教授 関本 真乃

本のおかわり『君の唇に色あせぬ言葉を』阿久 悠 著



外国語学習ノススメ

図書館長・人文学部日本文化学科教授 大谷 通順



OTANI Michiyori
1985年北海道大学大学院文学研究科
中国文学専攻博士課程中退。北海道大
学助手を経て、1989年本学教養部講
師、1992年同助教授、1997年同教授、
1998年人文学部教授、2017年図書館
長。専門は中国文学、研究テーマは明
清小説研究、中国伝統博戯研究。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうござい
ます。皆さんは必要に迫られた勉強から解放され、
知的好奇心のおもむくまま自由に学ぶことで
きる、豊かな時間をついに手に入れました。こ
こで、その時間の一部を外国語の学習に割くこ
とを強く勧めたいと思います。

なぜ学ぶのか？

著名な中国文学者、吉川幸次郎は今からちよ
うど60年前に「なぜ外国語を学ぶか」という文
章を書き、その問いに対して過去と未来の両面
から答えを出しました。

過去については、千年来の日本の歴史を総括
し、日本人が外国文明の存在に敏感で、生活の
典型を国外にもとめ、それに近づくために外国
語を学んだという解答を導き出しました（ちなみ
に日本人の精神のありようを示す最近な例として、吉
川はその1年前の「受容の歴史」という論文で、「女
は髪を赤く染め、テレビとラジオではあんなに外国の
歌をうたい、歌手は、ベギーながし、ジェームズな
がしと、名のる。またいやな例ではあるけれども、

パンパン嬢が、外国の兵隊と腕をくんで歩いているの
には、それだけ外国人に近づいたというほこりが、な
いではないだろう」と述べています。

一方、未来にむかつては、科学技術の加速度
的な進歩が、言語を異にする各地域で沸騰して
いることから、もはやどの国も自国の技術に頼
るだけでは間にあわず、外国語の学習が必要不
可欠になる、というのが吉川の答えです。

しかしこれだけでは、「なぜ」に対する解答と
してどうしても深みに欠けます。じつは同文章
の後半で、「事がらの底辺には、（中略）より漠
然としてではあるけれども、より重大な意識が、
横たわり流れている」と前置きして、吉川がや
や控えめに述べた事柄があるのです。それを簡
条書きにすると以下のとおりです。

（1）文明はもはや一地域だけに孤立して存続
することはできず、言語を異にする他の地域
と交流することによってこそ、はじめて文明
たり得る。

（2）その交流とは、受動的には、他の地域に
発生した生活を柔軟に受容することであり、

能動的には、みずからの中に発生した生活を、
世界に共通し得るすぐれたものとして、他に
寄与することである。

（3）外国語教育も、この新しい意識を基盤と
して、はじめて完全な意義を得る。

わたしにとって皆さんに外国語の学習を勧める
理由は、つきつめるとここに落ち着きます。

敗戦の記憶がまだ生々しく、日本経済は高度
成長に足をかけたばかりという時期の知的リー
ダーのことばですので、あるいは今の皆さんに
は違和感があるかもしれません。民族や国家な
ど背負うものが多いうえに、強い使命感がある
ため、少々重苦しく感じられたかもしれません。
そのような皆さんには、もっと私的な理由から
出発してかまわないので、よりしなやかに外国
語に向かいあってもらいたいと願います。

先輩たちの実例

論より証拠。先輩たちの例を、新旧二つあげ
ることにしましょう。まずH君の旧例から。当時、
まだ須貝ビルの下には映画館があり、そこで

英語以外の外国語教員
おすすめの本

ドイツ語：北原 博



『外国語を身につけるための日本語レッスン』
三森 ゆりか 著 (白水社 2003年)

同書では、欧米文化圏の人々とのコミュニケーションがうまくいかない原因として、外国語力自体の問題だけではなく、(欧米流の) 論理が身につけていないことを指摘し、具体的な訓練方法を提言しています。

ドイツ語：北原 寛子



『外国語を話せるようになるしくみ』
シャドーイングが言語習得を促進するメカニズム』
門田 修平 著
(サイエンス・アイ新書、SBクリエイティブ 2018年)

母国語では無意識のうちに行っている「聞いて」「考えて」「話す」活動ですが、外国語ではなかなか上手くいきません。本書は、この困難を克服するためにシャドーイングが有効であることを、認知科学などの知見をもとに説明してくれています。英語が題材になっていますが、他の言語でもすぐに応用できます。



『銃・病原菌・鉄』
一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎(上・下)』
ジャレド・ダイヤモンド 著 (倉骨 彰 訳)
(草思社文庫、草思社 2012年)

はるかな人類史をダイナミックに概観した話題の本ですが、「インド・ヨーロッパ語族の人たちは同じ時期にアフリカから出てきた」ということや、様々な文字文化の伝播などが述べられており、外国語への興味関心という観点からもお勧めできます。

ロシア語：寺田 吉孝



『西欧の東』
ミロスラフ・ベンコフ 著 (藤井 光 訳)
(白水社 2018年)

ブルガリア出身の英語作家が故郷のブルガリアを描いた作品です。ブルガリア、旧東欧に興味があわく内容です。書評はネット上にかなりあります。



『おいしいロシア』
シベリカ子 著 (イースト・プレス 2016年)

コミック・エッセイです。ロシアの家庭料理、ロシアの日常生活が描かれています。著者のパートナーがロシア人ということもあり、細部にわたって的確に書かれています。

その他



『英語支配への異論』
——異文化コミュニケーションと言語問題』
津田 幸男 編著 (第三書館 1993年)

専門分野を異にする6人の学者が集まった「紙上シンポジウム」ともいえるべきものです。世上で当然とされる「英語＝国際語」という精神的呪縛にあらためて疑問のまなざしを向けています。



『英語化は愚民化』
——日本の国力が地に落ちる』
施 光恒 著 (集英社新書、集英社 2015年)

これは安易な「グローバル化」「アメリカ化」を批判する政治・経済政策論です。決して英語教育の必要性を否定するものではありません。

文化大革命後の中国映画を一举に上映したことがありました。意欲的な支配人のご好意で、うちの学生たちは特別割引にしてもらえたので、わたしは中国語履修者をひきつれ、授業の一環として全作品をみました。H君はそのうちでも謝晋監督の「芙蓉鎮」をみて痛く感動したらしい。前年よりわたしの研究室で読書会が開かれていることをかれは知り、当時ダイエー札幌店(現在のピヴォ)にあった中国書専門の中華書店で原作(古華の小説)を買って、うやうやしく捧げてきたのです。こうして週1回の読書会では「芙蓉鎮」を読むことになりました。

かれは卒業後、旧共産圏にネットワークをもつ国際物流会社に就職しました。その後、わたしは外務省特殊法人の仕事で北京へ1年間出向する機会を得たのですが、偶然、かれも北京大

学へ語学研修に派遣されていたため、中国でうれしい再会を果たしました。おまけに、わたしは入国時に中国税関でコンピュータを没収されたり、さんざんな目に遭わされたのですが、帰国時にはかれの会社のおかげで大量の引越荷物をスムーズに通関することができたのです。

もう一つはS君の新例です。3年生の秋、S君が突然、妖怪や幽霊の出てくる中国小説を読みたいと言いました。そこで怪異を記した代表的な小説集、清の蒲松齡『聊齋志異』を読むことにしました。ただし原典は文語で書かれており、かれの学んだ初歩的な口語の力では歯が立ちません。幸い最近では中国で文語を読めない読者層のために、さまざまなタイトルの口語版が出版されています。そこで口語版『聊齋志異』を使い、あわせて中国の連続テレビドラマ

マ「聊齋先生」の該当箇所をDVDでみたりもしました。

かれは卒業後、中国で旅行代理店のためにガイドブックなどを翻訳しているとのことでしたが、つい先日、ある新聞の人物紹介欄でその懐かしい顔をみつけました。「台湾人気小説で翻訳家デビュー」というふれこみです。かれのペンネームが、米国怪奇小説作家ラヴクラフトの名を分解して和訳したものの(「愛工作」)に基づくこと知り、あい変わらずの様子に微笑ましく感じました(ただしそれを中国語訳とする新聞記事は誤りです。中国語では「仕事(工作)」が大好き」という意味にしかありません)。

このような先輩たちの事例は枚挙にいとまがありません。皆さんの中にも、この「列伝」に名をのこす人が必ずいるだろうと信じています。

大学で英語を学ぶ意味

経済学部経済学科准教授 柁木 貴之



MASAKI Takayuki
2019年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)(東京大学)。東京理科大学非常勤講師などを経て、2020年本学へ着任。専門は言語教育(英語教育、国語教育)、研究テーマは英語教育と国語教育の連携。

私は大学四年間で英語と国語の教員免許を取得し、北海学園大学では英語を教えています。この文章では大学で英語を学ぶ意味について話した後、言葉の魅力について考えたいと思います。

大学で英語を学ぶ意味は二つあります。一つ目の意味は「高校までに培った英語力をさらに伸ばすこと」です。みなさんは高校までにかかりの時間をかけて単語・文法・発音等の基礎を学んだと思います。この蓄積はかなりのものです。ここで勉強をやめてしまうのはもったいない。大学ではさらにその英語力を伸ばして欲しいのです。おすすめの勉強法は、好きな映画やドラマ、アニメ、マンガを英語で見めることです。

一つ例を挙げましょう。みなさんは実写版『アラジン』をご覧になりましたか？まだアニメ版しか見ていないという方はぜひ観てください。実写版『アラジン』には、魔法のランプを手に入れたアラジンが、ランプの魔人ジーニーに願い事をする場面が出てきます。このときア

ラジンは王女ジャスミンに恋をしていました。でも王女と結婚できるのは王子だけです。そこでアラジンはジーニーに、Can you make me a prince?と願い事をします。このセリフに対してジーニーは「その言い方はずいぶん曖昧だな」と突っ込みます。前述のセリフがどうして曖昧な表現になるかわかりますか？一分ほど考えてみてください。

…さて一分経ちましたね。実はCan you make me a prince?という表現は、学校英文法の言い方をすると、第四文型と取るか、第五文型と取るかで、二通りの解釈ができるのです。第五文型と取ると、「ぼくを王子にしてください」という意味になります。アラジンが意図したのはこの意味です。でも、第四文型と取ると、「ぼくに王子をくれないか？」という意味になります。この意味から、ジーニーは「作っちゃおう？王子一丁」とアラジンをいじり倒します。よく巷では「日本語は曖昧な言語、英語は論理的な言語」と言われることがありますが、そうではありません。英語でも話し手によって、いくらでも曖

昧な表現が生まれるのです。私はこのやりとりを通して、そのことを再確認しました。

さらに興味深いのは、この箇所の日本語吹替です。それは「王子とかできる？」となっていています。これは絶妙な吹替だと思いませんか？この吹替は「王子をくれないか？」という意味と「王子にしてくださいか？」という意味の両方に取り替えるからです。この日本語吹替を通して私は、普段何気なく使っている「とか」という表現の奥深さも学びました。

以上が大学で英語を学ぶ一つ目の意味ですが、みなさんの中には以下のような疑問を抱く人がいるかもしれません。それは「もし大学卒業後、英語を使わなければ、それまでの勉強は無意味になるの？」というものです。そこで、提示したいのが二つ目の意味です。それは「英語・英語文化を学ぶことで、日本語・日本文化を見直すこと」です。英語学習を通して、思考力を高め、日本語・日本文化を見つめ直すことができれば、それは一生みなさんを支える力となります。外国語には、我々が普段無意識に使っている日本

おすすめの本



『英語の感覚・日本語の感覚
——ことばの意味のしくみ』
池上 嘉彦 著

(NHK ブックス、日本放送出版協会 2006 年)

語について、意識して考えさせる力があるので
す。
あらためて例を示しましょう。みなさんは『鬼
滅の刃』は好きですか？ 私は最初、あまり興味
がなかったのですが、ある学生の方がとても上
手にその魅力を紹介してくれたので、今では大
好きなマンガです。そこで英語の勉強のため、
さっそく英語版を購入してみました。そして、
第十二巻の日本語版と英語版を読み比べてい
るときに、面白い例を見つけました。それは「俺
はわざと避けなかったんだよ」というセリフの
英訳です。それは英語版では「purposely didn't
Dodge」となっています。Dodgeとは「ドッチボー
ル」のDodgeです。私はそれまでドッチボール
とは、相手に球をぶつけるスポーツだと信じて
疑いませんでした。ですが、英単語Dodgeを辞
書で引くと「よける」「かわす」と出てきます。
実はドッチボールとは、いかに相手の球を避け
るかを競うスポーツだったのです。
さらに面白いのはドッチボールの漢字表記で
す。日本の球技は、バレーボールなら「排球」、



『ことばワークショップ
——言語を再発見する』
大津 由紀雄 編

(開拓社 2011 年)

バスケットボールなら「籠球」というように、
漢字二文字で表記されることがありますね。日
本のドッチボールの歴史を調べてみると、かつ
て「避球」と表記されたことがあったとわかり
ました。同じ日本語表記でも、片仮名はドッチ
ボールの何たるかを、私に何も教えてはくれま
せんでした。でも漢字は美に雄弁に、ドッチボー
ルがどんなものを言い表していたのです。
どうですか？ 英語と日本語を比較してみ
ると、言葉について色々な発見がありませんか？
このような立場から、私は現在、「英語教育と国
語教育の連携」を研究テーマとしています。こ
れまで英語と国語はまったく別の教科でしたが、
両者を関連付けて学ぶことができれば、英語と
国語の勉強に相乗効果が生まれるのではないかと
考え、「連携」の方法について研究しています。
その過程で、自分はどうしてこんなに言葉に関
心があるのだろう、言葉の魅力とは一体何なの
だろうと考えます。

上で述べた二つの意味を踏まえると、言葉の
魅力とは「それを学ぶことで、私たちの世界が
広がること」と言えそうです。これまで伝えら
れなかったことが伝えられるようになる、これ
までなら絶対に言っていたことを言わないよう
になる、これまでできなかった考え方ができる
ようになる、これまで受け入れられなかった思
想や文化を受け入れられるようになる。このよ
うな形で、言葉の学びは、私たちの世界を決定
的に変えてくれるのです。
今、世の中を見渡してみると、あまりに切実
な状況です。とにかく、役に立つ知識・技能を
身につけ、お金を稼ぎ、生きていくことが重要
であるように見えます。そして、それは実際、
重要です。そのような観点から見ると、英語学習、
語学学習はとても地味です。単語・文法・発音
を覚えていき、外国人と話してたくさん間違っ
ていくような地道で泥臭い作業が必要不可欠です。
すぐに役立つ性質のものではありません。しか
し、その一見、地味な作業の一つ一つが、みな
さんの言葉の力を高め、知性を磨き上げてくれ
ます。北海学園大学の語学授業で、その第一歩
を踏み出してみませんか？



『英語を通して学ぶ日本語のツボ』
菅井 三実 著

(開拓社 2012 年)

タイムカプセルを開けてみよう

人文学部日本文学化学科准教授 関本 真乃



SEKIMOTO Masano
2015年京都大学大学院文学研究科博士後期課程文献化学専攻修了。博士(文学)(京都大学)。大谷大学文学部文学科助教などを経て、2018年本学人文学部講師、2021年同准教授。専門は国文学、研究テーマは日本中古中世の文学、特に中世王朝物語。

新しいこと、知らないものを知ること、わたしたちの世界は広がっていく。他者を知ろうとせずにいると、いざ未知の相手と出会ったとき、最初は違いだけが目に付く。そして、「一夫多妻制なんてばかっている」といったように、自分と違うものはおかしい、気持ち悪いと反射的に攻撃してしまうこともあるかもしれない。

他者を知ること、自分と他者の共通点、相違点に気づくことでもあって、それによって「わたし」がどんなものであるか、理解を深めることができる。そうすることの繰り返しによって、わたしたちは視野を広げ、価値観の相対化をおこなってゆける。日本の古典文学作品は、ことばやそれが生まれた気候、地形などが似通っているのに、現代日本の「わたし」を知るための身近な他者としてちょうとよい。

『枕草子』に、「めでたきもの」として「庭に雪のあつく降りしきたる」が挙げられている。雪国で生まれ育った人には、あまり理解されない感覚かもしれない。一方京都では数年一度くらいしか雪が積もらないので、雪が積もると、

そここで大人も子どもも雪だるまを作る光景が見られる。

同じく『枕草子』で十二月に大雪が降ると、「みな寄りて、いと高う作りなす。宮司などもまゐりあつまりて、言加へ興ず」と、みながはしゃぐ。最初は女性たちが縁に雪を積み上げていたのが、庭に本格的な雪山を作らせ、それがいつまで保つか当て推量する。清少納言は年明け十日ころまで残るだろうと言ってしまったがために、雨で雪山が消えてしまうのではないかと気が気でない。黒ずんだ雪山の番まで個人的に心配して、さあ自分の言った期限の日まで雪がありましたよ、と雪を取りにやらせたところ、なんと雪山は溶けてしまっていた。

こういうくだりを読むと、先人が生きた千年前の感情の揺れ動きが丁寧に保存されていることがよくわかる。摂関政治だの中宮定子だの、歴史知識としてしか知らないことばの裏に、そこを「現在」として感情を伴って生きていた人がいた、わたしたちとおなじ人間が生きていたのだ、という再発見がある。

「古典」は決して高尚なものではないということがよくわかる。そこには愚かさ、醜さ、けなげさ、喜怒哀楽、人間のありとあらゆる側面が鋭く切り取られており、わたしたちは複雑な感情の壁や思考を体験することが出来る。そうすることで、世の中や社会のありようはどんどん移り変わっていく一方、人間の本质は千年経とうが変わらないことがよく見えてくる。

そして、わたしたちは、何の翻訳も介さずにそれらの作品と向き合うことが、割合容易にできる。いわばタイムカプセルを開けて、千年前のことばを直接味わうことができるのである。

たとえば、「花の色はうつりにけりないたづらに我が身世にふるながめせしまに」という和歌には、「経る・降る」「眺め・長雨」の掛詞が見られ、「花の色」は、桜の花と、己の容色を指す。一首の意味は、「桜の花の色は褪せてしまったよ。美しかった私の容色も、年老いて衰えてしまったことだな。長雨が降るのを、物思いにふけて眺めていた間に」となる。こうやって現代語に直してしまうと、この和歌を音読したときの

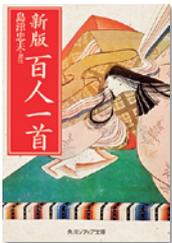
おすすめの本



『新版 徒然草 現代語訳付き』
兼好法師 著、小川剛生 訳注
(角川ソフィア文庫、KADOKAWA 2015年)



『新版 枕草子(上)(下) 現代語訳付き』
清少納言 著、石田穰二 訳注
(角川ソフィア文庫、KADOKAWA 1979-1980年)



『新版 百人一首』
島津忠夫 訳注
(角川ソフィア文庫、KADOKAWA 1973年)



新日本古典文学大系
『新古今和歌集』
田中裕・赤瀬信吾 校注
(岩波書店 1992年)

「よや」というものは何割か失われてしまっている。和歌では三十一文字の中に感情を凝縮するために、さまざまな修辭が用いられるが、和歌に限らず古文の表現は、引用を多用し、典拠を示し、短い中でどれだけ奥行きを出すかに精を出しているところがある。

『源氏物語』において、桐壺更衣(光源氏の母)が亡くなったことを悲しむ桐壺帝は、「尋ね行く幻もがなつてにても魂のありかをそこと知るべく」という歌を詠む。直訳すると、「桐壺更衣の魂を探しにいってくれる幻術士がほしい。人づてにでも魂のありかをそこだと知ることができるようになる」となる。これだけでは、唐突すぎて意味がわからない。これは白居易の『長恨歌』(唐の玄宗と楊貴妃の悲恋をモチーフとする)を基にしており、そこに玄宗の使者の幻術士が、非業の死を遂げた楊貴妃の魂を仙界で尋ね出して、証拠の釵と小箱を持ち帰った、とあるのに拠る。当時の『源氏物語』読者は当然『長恨歌』

を知っているから、こうした説明なしで、桐壺帝の悲しみの深さが、玄宗のそれと二重写しになって理解され、それによって物語世界の奥行きも増す。

現代の我々が『源氏物語』の世界に没入するには、こうした当時の教養や社会の仕組みを推さなければならぬ。それが古典の敷居を高く感じさせているのかもしれない。

また古文は、主語がわかりにくいということが不評だ。しかし読み慣れると必要などころには提示されていることに気づく。わたしが専門としている物語においては、草紙地といわれる物語の「語り手」と、登場人物が流れるように一体化し、自然とも溶け合い、渾然一体となる。

日本語の漫画や小説を、外国語に訳すと、原作そのものとはどうしても異なってしまうように、現代語訳では表現しえないもの、原文でしか表現できないものがあるので、一度原文に触れてみてほしい。

現在存在する「古典作品」は、近世を除いて、

印刷技術が未熟で紙が貴重な時代に、手元に残すべく労力を割いて写され、残ってきたものがある。つまりそれに見合う価値があったものということになる。

とはいえ、先ほど述べた通り、それは当時の人にとっての価値であるから、こちらから理解しようと思えば、その魅力は隠れたまま。最初からすべてはわからないものだと思つて、なんとなく興味のあるものに手を伸ばしてみてもいい。『徒然草』は含蕃に富んでいるが、十八歳で読むよりも、三十歳で読む方がおもしろいかも。一度目読んだときにはわからないことがあったことに、後で気づくこともある。『源氏物語』『枕草子』『徒然草』、いずれも、何度も何度も噛み締められるもの、それに堪える作品である。

わからなくても、わかるうとしてみることは、糧になる。世界は広がっている。縦横無尽に冒険してみてもいい。

